

## 鞆港の常夜灯：

かつて北前船の立寄りで賑わい 文化の寄港地としての日本遺産に



2019年11月（広島県福山市鞆町鞆）

### ◆朝鮮通信使もたびたび寄港

潮待ちの港として古くから万葉集にも詠まれ、江戸時代に北前船の寄港地としても栄え、朝鮮通信使も幕府の慶賀などのために度々寄港。2018年、鞆の浦の港町文化をテーマとしたストーリー「瀬戸の夕凧が包む 国内随一の近世港町～セピア色の港町に日常が溶け込む鞆の浦～」が日本遺産に認定。

### ◆鞆港のシンボル

鞆港常夜灯は江戸末期(1859年)につくられた船の出入りを誘導してきた灯台で、高さは5.5m、海中の基礎から宝珠まで11mあり、現存する江戸時代の常夜灯としては日本一の大きさです。

岡村幸二（JRRN会員）